

関祖日隆聖人物語 第8回



550

比叡山と妙本寺の月明からの迫害により、苦しめられた日隆聖人だったけど、迫害に負けず頑張っているお姿を見た人々から、色々なお手伝いを受けて、妙蓮寺と本能寺というお寺ができたんだ。今月はその話をしよう。

妙蓮寺と本能寺

妙蓮寺の再建

日像聖人の教化をうけた酒屋、柳屋仲興さんが、延慶二年（一三〇九）に西洞院五条に小さなお寺を建てて妙法蓮華寺と名乗るんだ。のちに比叡山の僧兵（武器を持って戦う僧侶）に壊されるんだけど、応永年中（一三九四〜一四二七）に妙本寺の月明に反対してお寺を出た日存、日道、日慶、日隆聖人、それと一緒に日慶上人という方は、ここに小さなお寺を建て直して教えを弘められる。のちに日慶上人は、柳屋さん一族の応援を受けて綾小路大宮に、妙法蓮華寺を略し妙蓮寺という新たなお寺を建てられるんだよ。

やがて日應師が妙蓮寺の住職になると盛んになり、文明十五年（一四八三）に日存、日道、日隆聖人も歴代のお住職として加えられるようになった。でも、比叡山からの迫害によって天文五年（天文法華の乱・一五三六）にお寺を焼かれ、一時堺に避難するんだが、天文十一年、大宮西小路に再建。豊臣秀吉の京都市中整備により現在地に移転したんだ。私たち本門佛立宗の本山宥清寺は、元は妙蓮寺の末寺だったんだよ。

本能寺の創立

戦国時代の英雄・織田信長が、天正十

年（一五八二）六月二日、部下の明智光秀の裏切りによって殺された「本能寺の変」は有名だね。その舞台になったお寺だよ。本能寺は、日隆聖人が二回目に妙本寺を



民衆に教えを説かれる日隆聖人



妙蓮寺の山門

出られた応永二十二年（一四一五）に建てられたもので、最初は「本応寺」という名前だったんだ。日隆聖人は、妙本寺が比叡山の僧兵により壊されると、その再建のため戻られるんだけど、やっぱり月明と対立して応永二十五年、三回目となる最後の妙本寺からの出寺となるんだ。本応寺もその時に月明に壊されてしまうんだ。

やがて永享元年（一四二九）、京都に戻られた日隆聖人は、ご信者の山本宗句さんの援助で内野に本応寺を再建し、永享五年には如意王丸（足利尊氏の弟の直義の子）から六角大宮の西、四條坊門に大きな土地を有志されて本応寺を移転し、「本能寺」と名前を変えられたんだ。

本能寺は、足利家の保護を受けて大いに発展し、当時の京都市中は「題目の巷（おおいに弘まる）」と言われたんだ。しかし天文五年、それに怒った比叡山等の迫害により、他の日蓮大士の教えをいただいた京都市中二十一の寺院とともに焼かれてしまったんだ。（天文五年、天文法華の乱・一五三六）

天文十四年には四条西洞院に移転して再建したんだけど、今度は本能寺の変で焼かれてしまい、豊臣秀吉の命令で鴨川（現在地の寺町御池）に移転することになるんだ。それでも、戦争や火災によってお寺は焼けてしまうんだよ。本能寺は創建以来、四回場所を変わり、七回も火災にあったそうなんだ。そこで、本能寺の「能」という字の右側の「匕・匕」という文字は「火」にながって縁起が悪いということ、今では「匕」が「去」という「祛」という字になっているんだよ。



本能寺の門柱 よく見ると「祛」の字になっている